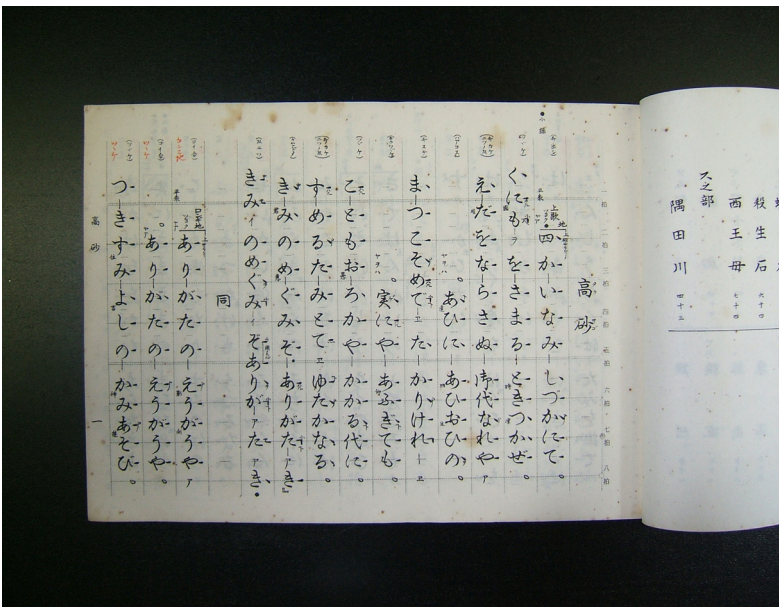


田崎延次郎 『観世流謡曲 地拍子附独吟集』

代表的小謡、仕舞、囃子所を百番とりあげて割付けを示す。田崎が版行した百番の地拍子附謡本（51頁、52頁、59〜63頁）を部分謡集として再現する。「欄外には高安流大鼓の手配をも併記し、三つ地謡とツバケ謡との区別をも明らか」（緒言）にする等、部分謡集として画期的な工夫がみられる。写真下は高砂。フオーマツトは、五拍までの拍間を三分割する中島（24頁）方式を残す。その分「拍子などは殆んど念頭におか」ない「世間の多くの人士」（緒言）には、異様の書とみられたことだろう。



標題 内題…

標題紙…

奥附…

その他…観世流謡曲 地拍子附独吟集

（序・目次・題簽）

著者 奥附…田崎延次郎

その他の場所…田崎延次郎（序）

出版 版次…第一版

出版地…東京・京都

出版社…檜大瓜堂書店

出版年…昭和2（1927）

その他の場所…序 昭和2（1927）

形態 冊数…一冊 頁数…一二七丁

寸法…16×23（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考